

## 第6節 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士

### ポイント

#### 現状と課題

- ・人口10万人当たりの就業者数は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士とも全国平均を上回っている。
- ・脳血管疾患等の生活習慣病が増加しており、急性期を脱した後に残る身体等の障害について、機能回復を図るためのリハビリテーションの重要性が高まっている。

#### 対策

- ・生涯学習の支援

### < 現状と課題 >

本県では、平成19年4月現在、理学療法士（PT 1）が450人、作業療法士（OT 2）が316人、言語聴覚士（ST 3）が95人就業しています（表-1参照 理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会の各会員数）。

いずれの職種も年々増加し、人口10万人当たりの数は全国平均を上回っています。

表-1 理学療法士数、作業療法士数、言語聴覚士数の推移

	理学療法士				作業療法士				言語聴覚士			
	山梨		全国		山梨		全国		山梨		全国	
	総数	人口10万対	総数	人口10万対	総数	人口10万対	総数	人口10万対	総数	人口10万対	総数	人口10万対
平成8年	133	15.0	17,295	13.7	96	10.8	8,750	7.0				
平成12年	192	21.6	26,921	21.2	150	16.9	14,882	11.7	47	5.3	4,667	3.7
平成19年	450	51.1	58,647	45.9	316	35.9	38,097	29.8	95	10.8	12,564	9.8

資料：長寿社会課、山梨県言語聴覚士会（言語聴覚士はH11から認定資格制度がスタート）

### [用語解説]

#### （1）理学療法士〔physical therapist〕

高齢者、交通事故、脳卒中での片麻痺（へんまひ）などから、新生児の運動能力の発達の遅れ、身体的な障害を持つ人に対して、医師の（時に歯科医師）の指示の下、その基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、及び電気刺激、運動療法、温熱その他の物理的手段を加える者。

## ( 2 ) 作業療法士 [ occupational therapist ]

医師の指示の下に、身体又は精神に障害のある者またはそれが予測される者に対し、主としてその応用的動作能力又は社会的適応能力の回復を図るため、手芸、工作その他の作業を行わせる、コメディカルの種類。

## ( 3 ) 言語聴覚士 [ Speech-Language-Hearing Therapist ]

言語聴覚士は、脳卒中後の失語症、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など、ことばによるコミュニケーションの問題について、本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行います。

近年、脳血管疾患等の生活習慣に起因する疾病が増加しています。

脳血管疾患を発症した場合、急性期を脱しても身体等に障害が残る例が多く、急性期医療機関等との連携によるリハビリテーションの必要性が、今後ますます高まることが予想されます。

理学療法士、作業療法士の養成については、現在、県内では、健康科学大学、帝京科学大学、帝京医療福祉専門学校の3校において行われています(ただし、平成20年度から健康科学大学(定員各85名)、帝京科学大学(定員各40名)の2校)。

## < 対策 >

### 生涯学習の支援

脳血管疾患等における急性期医療機関等との連携体制を構築するため、県医師会、県理学療法士会、県作業療法士会、県言語聴覚士会及び各養成機関等と連携して研修会を開催するなどの支援を行っていきます。